

令和8年度 新たなまちのかたちに関する意見交換会 大谷地区 協議記録

日 時	2026 年 8 月 31 日（月） 18:00～19:30
場 所	大谷小中学校 体育館

参加者：47 名

【開会のあいさつ】

丸山区長会長：

復旧・復興に向け、市役所が各地区を回って「新たなまちのかたち」に関する意見交換を行っており、本日は大谷地区である。行政からの説明を聞き、関連して聞きたいことがあれば、この機会にご発言いただきたい。

これまで大谷地区では、復旧への対応に追われ、地域として将来どのようなまちにしていくかを皆さんと十分に議論できていなかったと感じている。今後どのような環境にしていきたいかを地域でも検討していく必要がある。区長会でも議論し、皆さんの意見をいただきながら前に進めたい。

川端市議会副議長：

本日の市議会臨時会では、清水町周辺の船だまり等の災害復旧工事に関する議案も全会一致で可決した。今後、工事が進んでいくと思う。

住まいは生活の基盤であり、仕事や地域の維持も重要である。5年後、10年後もこの地域で暮らし続けられるように、皆さんと共に考えていきたい。本日は多くの行政職員も出席しているので、聞きたいことや意見を積極的に出し、貴重な意見交換の場としていただきたい。

泉谷市長：

能登半島地震の発災から2年8か月、奥能登豪雨からもまもなく2年となる。多くの皆様の支援により、応急復旧から本復旧、そして復興へと進み始めている。

大谷地区では、移り住んできた若い方々の活躍が目立っている。大谷こいのぼりミニフェスティバル、塩田村、みんなのスーパー等の取組みがあり、「みんなの家」も起工した。レストランやスズ・シアター・ミュージアムも再開している。こうした場所が、これからの大谷地区の新たなまちのかたちの拠点になっていくと考えている。

復興公営住宅については、馬縞町団地で10戸、大谷町団地で40戸、仁江町団地で10戸、高屋町団地で10戸の整備を予定し、いずれも発注済みまたは設計を進めている。6月に入居申込みを受け付けており、大谷地区の各団地については、地域の入居希望者が入居できるよう丁寧に進めたい。

逢坂トンネルは国土交通省の権限代行で復旧を進めていただいております、あと1か月程度で通行可能となる見込みと聞いている。長期避難世帯の指定についても、解除できる地域からできるだけ早く解除できるよう調整している。

大谷小中学校については、「魅力ある学校教育環境のあり方検討会」で議論を進めているが、現在通っている生徒、保護者、地域の皆さんから残してほしいとの強い要望がある。大谷小中学校は維持していく方向である。

この後、担当から説明した上で、大谷地区を今後どのようにしていくかについて、皆さんから意見や要望をいただきたい。

【資料説明】

- ・地区別まちづくり計画について

【意見交換】

参加者：

仁江町では復旧に時間がかかり、元の住民もそれぞれの場所で生活再建を進めている。長期化する中で、公営住宅の入居要件から外れてしまうことがないよう、もともとのコミュニティを大切にする観点から、地域住民が仁江町の公営住宅に入れるよう特段の配慮をお願いしたい。

珠洲市：

現在、仁江町団地を希望している元仁江町住民については、全員が仁江町団地に入居できる見込みである。ほかの地区から仁江町団地を希望する方もいるため、その点はご了承いただきたい。

参加者：

逢坂トンネルの真浦町側出口に勾配ができると聞いている。運転する立場からは勾配がない方がよいと思うが、実際の計画はどうなっているのか。観光バスなども走りやすい道路にしてほしい。

市長：

逢坂トンネルは、埋まった土砂を全て撤去するにはまだ時間がかかるため、真浦町側出口に若干勾配をつけることで、より早く車両を通行できるようにする計画と聞いている。極端な勾配にはならないと認識している。

さらに、逢坂トンネルから内陸側へ新しいトンネルをつなげて掘る計画も国土交通省から示されている。より安全で走りやすい道路として復旧いただくことになっており、観光バス等も通行できる道路になると考えている。

参加者：

片岩町の市道について、昨年11月の意見交換会では令和8年度に復旧工事を行うと説明を受けた。秋なのか年度末なのか、現在の計画を教えてください。

また、片岩町から山へ通じる農道上部で大きな崩落があり、地すべりの可能性もあるため調査すると聞いていた。その後の検討状況や見通しを教えてください。

珠洲市：

市道等の本復旧については、地元業者だけでは工事量を消化できない状況にある。下水道区域では道路、上下水道、排水路、河川等をまとめて大きな工事として発注する準備を進めている。大谷地区、日置地区、若山地区、三崎地区等についても、設計が完了したものから数億円規模にまとめて発注する方針である。

大谷地区についても10月以降に本復旧へ着手できるよう準備している。全てを一度に本復旧できない場合でも、令和8年度後半、雪が降るまでに必要な対応を進めたい。

農道については県の担当者とも協議しているが、現時点で具体的な着手時期を示せる段階ではない。見通しがつき次第、改めて説明する。

市長：

農林水産関係の復旧を進めるため、市では今年度から農林水産復旧推進室を設けている。

参加者：

市道は昨年11月に令和8年度中に工事すると説明を受けているため、遅れる場合も含め、住民へ見通しをしっかりと説明してほしい。

市長：

道路、河川、橋梁などは予算を確保していても、土木工事では入札の約6割、建築では7割余りが不調となる状況が続いている。複数の工事をまとめ、金額を大きくすることで、規模の大きい建設会社にも参加してもらい、インフラ復旧を加速させたい。見通しがついた段階で改めて報告する。

参加者：

真浦町では、垂水橋から町内に上がる市道を仮復旧してもらったが、強い雨が降るたびに砂利や土砂が道路一面に流れ込み、集会所にも行けなくなることがある。本復旧までの間も、土砂が流れ込まないように、更なる応急対策を検討してほしい。

また、真浦町ではケーブルテレビが未復旧で、災害情報を得る手段も限られている。今後の復旧計画と見通しを教えてください。

市長：

真浦町ではテレビが見られない状況が長く続いており、申し訳なく思っている。一度、迂回道路に沿ってケーブルを通して仮復旧したが、その後の時化で断線した。

再復旧については、逢坂トンネルを通すルートの本復旧として国の補助対象にする案と、能登町柳田側から新たにケーブルを引く案があり、能越ケーブルネット株式会社側でどちらの方法を採用するか検討している。補助制度を活用できるよう総務省とも協議を進めている。時期はまだ明示できないが、できるだけ早く方針を決めて復旧するよう働きかける。

珠洲市：

真浦町の市道については、側溝を設けるのか、法面から土砂が流入しないようにするのか、現地を確認して応急対応を検討する。

丸山区長会長：

長期避難地域について、現在指定されている地域の解除時期を、分かる範囲で改めて確認したい。

市長：

潮騒レストランの下、大谷町上浜については令和 8 年 10 月 1 日の解除を目標に調整している。

「大町」、「川辺」は、広栄寺の奥から土砂が流れてきた場合に備えた防護対策を行った上で、今年度末を一つの目安とし、来年 4 月 1 日頃の解除を目標にしていると林野庁から聞いている。

珠洲市：

大谷町東西の広栄寺周辺については、奥の工事規模が大きく時間を要する。林野庁は令和 10 年度末に完成させたいと考えている。解除は令和 11 年度当初と聞いている。以上は豪雨による長期避難指示で、豪雨より前に地震により長期避難になっている箇所の一つは「大浜」、小中学校の前である。

石川県：

大谷町大浜は県珠洲土木事務所で進めており、令和 10 年度末に完了する予定である。

また、地震による長期避難地域に指定されている「東西」、「森吉」であるが、斜面の土砂をとって法面を押さえることを繰り返しており令和 11 年度までかかる。

珠洲市：

仁江町と清水町は国土交通省が直轄工事で進めている。両方とも令和 11 年度末と聞いている。

参加者：

「大町」に住んでいる。長期避難の解除はいつになるのか。

珠洲市：

令和 10 年度末まで対策工事を予定している。会議終了後に地図を用いて説明する。

参加者：

角間集落は現在 3 戸程度で、多くの住民が仮設住宅等に入っている。晴天時は道路を通れるが、雨量が多いと崖から土砂が落ち、通れなくなる。川も埋まり、雨水が下の住宅へ流れ込む。林道も崩れて奥へ行けない。上流側は手つかずのように見えるが、復旧計画はどうなっているのか。

珠洲市：

角間集落へ通じる市道と河川については、先月、工事業者が決まった。現在、実施工程を組んでいる段階で、着手まで多少時間を要する。雨が降るたびに土砂が流入する状況については、本工事を待たず、応急対応も含めて検討する。

参加者：

同地区では道路下の排水が閉塞したままで、雨が降れば越流する状況が長く続いている。危険箇所のため、本工事の着手前でも優先して対応してほしい。

珠洲市：

道路・河川工事は発注済みで、業者も決定している。施工業者ですぐ対応できない場合は、別の業者も含めて調整し、秋雨の時期を迎える前に危険箇所だけでも対応できるよう検討する。

参加者：

高屋町で計画されている戸建て復興公営住宅について、現在の防災無線の位置では音が届きにくいと思う。自宅でも多くの日で放送が聞こえない。防災面から改善を検討してほしい。

また、市役所を訪れた際、震災直後に冷たい対応を受けた経験がある。一方、最近訪れたときは職員がすぐに声をかけてくれて相談にも応じてもらえ、その日のうちに問題が解決したこともあった。

いつでも市職員が被災者の不安に寄り添い、温かい対応を徹底してほしい。

最近の各地の豪雨災害に対し、大谷地区の方々の協力でタオル等の支援物資を短時間で集めて被災地へ送ることができた。地域の支え合いの力を大切にし、珠洲市としても他地域への支援を続けてほしい。

市長：

各地で豪雨災害が続いており、珠洲市としても可能な支援に取り組んでいる。必要な物資の提供等についても対応できるので、必要があれば相談いただきたい。

市職員の対応について、良い対応と冷たい対応の両方があったとのご指摘は受け止める。玄関先で用件を伺う対応を常に行うことは難しいが、できる限り迅速で丁寧な対応を徹底していきたい。防災無線については関係部署で確認する。

参加者：

昨年末までに地域からお願いした事項の中には、その後の状況を十分確認できていないものがある。改めて整理し、関係部署へ進捗を確認したい。結論が出ているものは教えてほしい。検討中のものは引き続き検討をお願いしたい。

市長：

これまで地域から出された「新たなまちのかたち」に関するアイデアや要望は承知している。本日の資料に載っていないからといって、検討しないことではない。これからも大谷地区や各集落で議論を続けていただき、行政とキャッチボールしながら具体化していきたい。

参加者：

仁江町では戸建ての復興公営住宅を整備していただき、元の住民が入居できる見込みとなったことに感謝している。一方、冬は海からの風が非常に強いため、仁江町団地に風よけのような対策を検討してほしい。

また、将来的に高齢化が進み復興公営住宅に空きが出た場合、若い移住者等が入居できるのは何年後からか教えてほしい。

塩田村には夏季に大学生が手伝いに来ているが、外浦地区には宿泊施設が少なく、十分な宿泊場所がない。仮設住宅の活用や移築等も含め、ボランティアや学生が滞在できる場所を考えてほしい。

さらに、外浦では里海を生かした産業が重要である。真浦町や清水町の若い人から陸上養殖をやりたいとの声もあるので、土地の確保や事業化を支援してほしい。

市長：

仁江町団地の風対策については、高屋町団地でも同様の要望があり、事業者と相談しながら何らかの工夫を検討したい。冬だけの設備とするか、通年の設備とするかは景観との関係も含めて考える必要がある。

復興公営住宅は、入居開始から3年が経過すると一般の公営住宅となり、被災者以外の方や移住者も、要件を満たせば家賃を支払って入居できるようになる。

ボランティアや学生の宿泊について、応急仮設住宅を宿泊施設として利用することは難しい。地域の集会所等で宿泊利用ができる場所を活用することが現実的である。木造仮設住宅の移築自体は不可能ではないが、移設後は賃貸住宅として扱うことが基本となり、宿泊施設としての利用は難しい。

陸上養殖等については、民間から事業を行いたいという相談もある。市が施設を全て整備するというわけではないが、土地の紹介、公有地の貸付、企業立地等の補助制度の活用など、具体的な事業者の計画に応じて支援を検討したい。

参加者：

仮設住宅を団体で借り、1週間単位などで別の方へ貸すような使い方は可能か。

市長：

難しい。応急仮設住宅は石川県の財産であり、賃貸住宅に転用する場合は、石川県から譲っていただけたと思うが運用については制限が多い。

珠洲市：

応急仮設住宅の第一の目的は被災者への住宅提供である。現在も被災者が居住しているため、ホテルや民宿のように不特定多数の方が宿泊する使い方は想定していない。ただし、団体の方が目的外使用の申請を行い、責任をもって管理する方法であれば可能性があると思う。

市長：

そのような目的外利用の可能性は、仮設住宅の役割を終えた後になる。なお、空き住戸について、医療・福祉関係者や市外から移住して働く方などへ目的外使用として貸し出す取組みは既に行っている。

市長：

長時間にわたり、さまざまな意見、提言、復旧に関する具体的な要望をいただいた。道路、河川等の身近なインフラ、長期避難区域の解除、テレビの復旧など、切実な課題をできる限り早く進めたい。

大谷地区全体だけでなく、真浦町、仁江町、清水町、高屋町、片岩町、馬縹町、長橋町、笹波町、それぞれの地域の再生と復興を皆さんと共に成し遂げたい。今後も各集落、大谷地区全体で議論を重ねていただき、行政とやり取りしながら具体的に進めていきたい。

以上